

回復期リハビリテーション病棟における実績

回復期リハビリテーション病棟から退棟した患者数		62 名
上記の内、回復期リハビリテーションを要する状態の区分別内訳		
一	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、脳神経叢損傷等の発症若しくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態	55 名
二	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は 2 肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態	7 名
三	外科手術又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態	0 名
四	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	0 名
五	股関節又は膝関節の置換後の状態	0 名
リハビリテーション実績指数		59.48

（算定期間：令和 8 年 4 月 1 日～令和 8 年 6 月 30 日）

※リハビリテーション実績指数とは、「各患者の在棟中の ADL スコアの伸びの総和」を「各患者の（入棟から退棟までの日数）／（疾患毎の回復期リハビリテーション病棟入院料の算定上限日数）の総和」で割ったもの）で、実績指数が 42 以上ある病院はリハビリテーションの効果に係る実績が一定の水準に達している病院として厚生労働省が認めています。